産業技術総合研究所

2015 年 2 月 10 日

2015 年 1 月 28 日の阿蘇火山噴出物構成粒子の特徴

阿蘇中岳から 1 月 28 日にかけて噴出した火山灰試料は，よく発泡した淡褐色ガラス質粒子を多量に含む．大部分は等方的に発泡しているが，引き伸ばされた火山ガラス質粒子が少量含まれる．

京都大学火山研により山上監視所付近にて採取された 2015 年 1 月 28 日の阿蘇中岳の構成粒子を観察した．約 40%が発泡した淡褐色火山ガラス粒子（G），30%が黒色不透明のガラス質粒子（B），20%が不透明石質岩片（L），10%が変質を受けた火山岩片（A）からなる．淡褐色ガラス質粒子の大部分は等方的に発泡したスポンジ状であるが，よく伸長した粒子も少量認められる．1 月 19－20 日の噴出物（既報）に比べ，石質岩片の量が低下し，発泡したガラス質岩片量が増加している．淡褐色ガラス質粒子は上昇・噴出した高温のマグマが急冷したものと考えられる．黒色ガラス質粒子は，火道内あるいは火口付近にて徐冷したマグマが取り込まれたものと考えられる．

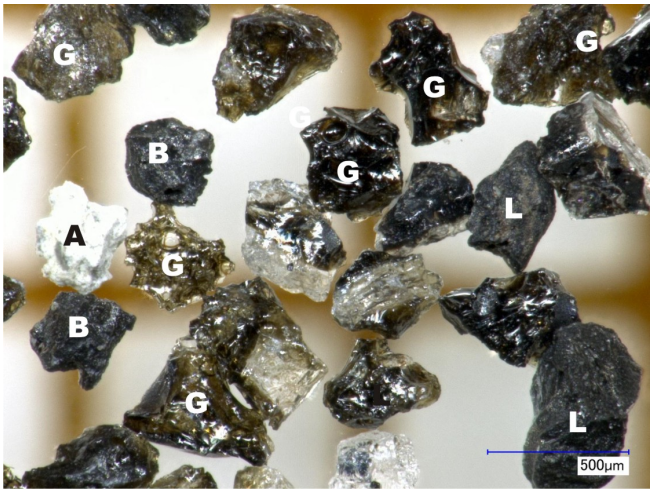

図 1　2015 年 1 月 28 日の阿蘇中岳噴出物の火山灰粒子写真.

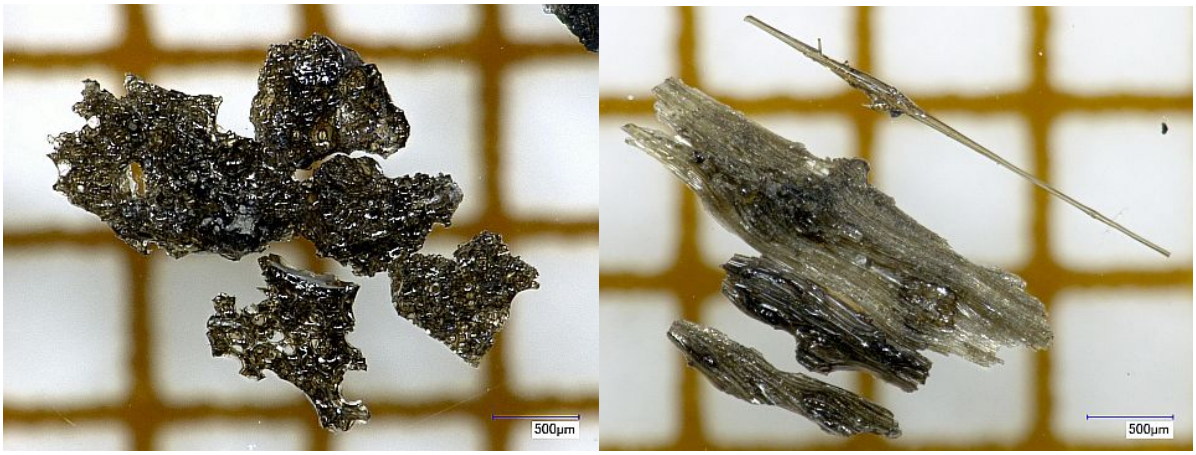

図 2　左：等方的に発泡した淡褐色ガラス質粒子．右：引き伸ばされた淡褐色ガラス質粒子.